

区の課題例示

実証実験のプロジェクト提案にあたり、区の課題を例示します。

これらの課題は、提案に当たっての参考としてお示しするものであり、提案の範囲を限定するものではありません。

新技術を活用した区民サービス向上に資する様々な提案をお待ちしています。

課題1：災害時の空撮、医薬品などの物資運搬

区民の9割が共同住宅に住んでおり、震災等でエレベーターが停止した場合でも、高層階に備蓄物資や医薬品などの緊急物資運搬を行うための手段が課題となっています。

また、発災時、台場地域への区内ルートは「レインボーブリッジ」と「ゆりかもめ」のみであり、それ以外は江東区又は品川区側から迂回する必要があります。災害発生時の上記の通行手段がストップした場合でも、被災状況の確認や医薬品などの緊急物資を速やかに運搬できる手段が課題となっています。

課題2：災害時の住家被害認定や被害状況確認、高層階での被害認定

区は、発災時に住家被害認定や被害状況確認の対応が必要です。区内は共同住宅が多く、特に、高層階の被害認定等の際に、安全、かつ、速やかに対応できる体制確保及び手法が課題となっています。

課題3：災害医療における遠隔トリアージができる仕組み作り

お台場地区は病院が無く、医療資源が少ない一方で、観光地であり昼間人口が多いです。しかし、災害時には、台場地域への港区内ルートは限られており、災害医療に係る医師を現地に派遣することは困難なことが想定されます。そこで、医師が現地にいなくても、医療救護所でトリアージを行える仕組みが課題となっています。

課題4：区内の公共用水域（古川、運河及びお台場海域）の水質改善

区内の公共用水域（古川、運河及びお台場海域）において、特に雨天時等に増加する排出水に伴う水質悪化が課題となっています。

今回、区は、みなと新技術チャレンジ提案制度で水質改善の実証実験を行い、その効果が認められた場合には、新技術を活用した取組を関係所管等に提案する予定です。

課題5：再エネ電力の区民・区内事業者の利用推進のためのシステム構築

区は、「2050年までに区内の温室効果ガス（二酸化炭素）の排出実質ゼロ」とする「2050年ゼロカーボンシティ」の達成を目標にしています。区民・区内事業者による再エネ電力の利用による二酸化炭素排出量の削減が課題となっています。

課題6：区民がストレス無く参画できるアンケートやイベントの方法

区は、幅広く区民からの声を聴き、区政に活かすため、アンケートや誰でも参加できる懇談会等、区民参画の手法を検討しています。区民の方がストレスなく参画し、アンケート回答できる手法や、その回答結果の集計作業の効率化が課題となっています。